

第1回 広島県経済財政会議 議事要旨

- 開催日時：平成27年5月15日（金） 15：00～17：00
- 開催場所：広島県庁北館2階 第1会議室
- 出席者：（主宰）湯崎 英彦 広島県知事
（委員）内田 和成 早稲田大学商学大学院教授
宇野 健司 株式会社大和総研調査業務部副部長
蔵田 和樹 株式会社広島銀行専務取締役、広島商工会議所副会頭
辻 琢也 一橋大学副学長
三浦 浩之 広島修道大学人間環境学部長・教授
吉田 正子 株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所
コーポレートアドバイザー

（五十音順、敬称略）
- 議事要旨（委員の主な意見等）
議事 （1）ひろしま未来チャレンジビジョン改定の骨子（案）について
（2）広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）骨子（素案）について
（3）平成27年度会議の進め方と協議テーマについて

議事（1）ひろしま未来チャレンジビジョン改定の骨子（案）について

（2）広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）骨子（素案）について

- 現在のKPIについては、内部の職員向けのイメージが強い。県民に向けたマーケティングを考えるべきではないか。広島県民がチャレンジビジョン、総合戦略を見ても、県が目指していることが伝わりにくいし、県外の方に対しても説明がしにくいものになっていないか。県民が県外の方に、広島県が目指しているところを、自信を持って、胸を張って話せるよう、分かり易く伝えるようなことができないかを感じる。
- どういった周知をすればインパクトがあるのかを考えると、人口減少の部分に尽きるのではないか。人口減少に歯止めをかけるためには、大きく分けて県外から呼び込む・引き戻す方法と、出生率を上げる方法があると思う。出生率が上がらない一つの要因である長時間労働の問題については、まず県庁が隗から始め、残業を厳しく管理するなどの対策をし、それがマスコミ等で取り上げられれば、県民が関心を持ち、県の目指すところが浸透するのではないか。
- 地域間競争に勝つベンチマークというか、圧倒的なサクセスストーリーをつくって、知事自らが広島ブランド、付加価値として打ち出し、買い手優位の移住市場での付加価値競争に勝っていく必要がある。
- 各KPIが達成された先に何が生まれるのかが示されていない。そこをシンプルに提示できれば、先ほど意見があった県民の理解も進むのではないか。また、ビジョン等にかかれている広島県の魅力が、実際に競争力を持つのか、県外の方にとって本当に魅力的なものになっているのかを、県外の方にも広く意見を聞く必要がある。
- 全体像で言えば、イノベティブで、ファミリー・フレンドリーであることが、広島県らしさであるという方向になってきている。経済成長はイノベーション、人づくりはファミリー・フレンドリーではなくて、人づくり、経済成長、暮らしづくり、地域づくりの全ての分野で、この2つの視点をもって考えていくことが、広島の個性につながる。もう一つ大切なことは、広島県の個性を県民の皆さんが理解して、広島ライフスタイルを実践していくこと。他県から来られた方が、そういうライフスタイルに共感して、広島に住もうという行動に繋がるよう、県民をいかに巻き込んでいくかという視点がないと説得力がない。

- 「イノベティブでファミリー・フレンドリー」など、広島を目指す方向が職員だけでなく、県民も理解しているということに繋がる、分かりやすいキャッチフレーズが必要ではないか。

議事（3）平成27年度会議の進め方と協議テーマについて

【広島らしい新たなライフスタイルの確立と多様な人材の集積、定着の促進】

- 広島サマータイムを導入して、学校も企業も夏の間は始業時間を1時間繰り上げ、終了時刻を早めることで、カープやサンフレッチェの試合を観戦したり、広響のコンサートや美術館に行ったり、観光ボランティアとして他県から来た人を案内したりすることが広がっていけば、イノベティブでファミリー・フレンドリーな広島ライフスタイルにつながるのではないかと。
- サマータイムの導入は中々厳しい。今年、地方創生の中でも、企業の工場を移転すると税額控除の対象になる制度があるので、それに関連させて、工場を誘致して、工場は比較的男女共同参画や女性の支援が進んでいないというイメージがあるので、税額控除ではなく、移転してきた工場を対象に、モデル事業として、ファミリー・フレンドリーになりやすいような就業体制を若干補助金のインセンティブを与えて展開する方が実効性が高いと思う。
- いくつかの都市を見た時に、都市の個性という部分の打ち出しが、まだ広島は弱いのではないかと。個性がある部分をもっと活用しないといけない。都市としての魅力について、広島は色々な面で有名だが、街としての個性はまだまだなので、そこを作らないといけないと思う。
- 都市の魅力ということ言うと、特に夜は一部の地域だけがにぎわっているというような状況である。健全な夜の時間の過ごし方が非常に限られている。そこが一番東京と違う点である。
- ファミリー・フレンドリーのあるべきKPIは、例えば、旦那が子供と接している時間が日本一で、なぜかという、会社から早く帰れる、通勤時間が短い、子供と親が遊ぶ施設が多い、企業から共働きの人にこういうサポートがあるなど、そこで生活している人たちが分かりやすい形で、落とす事がすごく大事。

【グローバルマインドの育成と留学生の受入・定着の促進】

- 留学生の受入については、出口を考えて、初めからある程度の目的を持って受け入れる方法もある。県内企業の海外工場がある地域の学生を県立高校や県立大学に引っ張ってきて教育してはどうか。日本に残って広島で就職してもらってもいいし、海外工場の幹部になってもいいと思う。また、送り出す側については、特に高校生については、高校生の修学旅行の海外化ができないかと思う。一括してパスポートを高校でまとめて申請するなど、コスト・手間の面の問題をクリアできないかと。
- 今年、好調な企業が採用数を増やしており、優秀な学生は、厳しい取り合いになっている。その中で、地方は中々大変で、地方でグローバルマインドを持った優秀な人を集めるというスキームをしっかり作らないと厳しい。
- 企業側のグローバルマインドを育成し、広島で外国人の雇用が増えれば、留学生にとって東京より広島の大学に行く方がいいということになる。一方、広島の人をグローバルマインドを育成するためには、高校や中学から、皆が留学や海外研修旅行を通じて海外に親しむという風にして、個別の施策が広島を目指す方向に上手くつながって、それを県民が他の地方の人に説明できる方がいいと思う。

【地域における企業経営支援機能の向上】

- 経営者の方、中小企業の社長などが、地域における企業経営支援の向上によって、どういうことになるのかを分かりやすく落とし込めるとすごくいいのではないかと考える。
- ライフステージに応じた生産性の向上は、言うのは簡単だが、ものすごく難しいテーマである。
- 広島県に既にある企業及びこれから誕生する企業を全て支援して育てようというように見えるが、それは無理ではないか。それより、成功する企業もダメになる企業もあるが、そこで働いている人材の流動性だけはきちんと担保しておくことが重要。